

現代都市下層地域の福祉化にもなう社会構造変容

カナダ・バンクーバーを事例に

首都大学東京
山本薫子

今日、日本の都市下層地域では高齢化などを背景とした福祉ニーズの増大が見られ、そのことによって生活保護受給者数が増加するなど「福祉化」（福祉への依存）の状況がある。一方、カナダを含む北米では、特に依存症を抱えたホームレスの生活改善と地域での安定的な生活への転換を目的に、居住確保を優先する「ハウジングファースト」による支援策が進められてきた。もともと社会的に排除された人々が多く集まる都市下層地域においてそうした社会的包摂の試みがなされることは地域の社会構造にどのような影響を及ぼしたのか、検討したい。

本報告では、カナダ・ブリティッシュコロンビア（BC）州バンクーバー市に位置する Downtown Eastside（DTES）地区を事例として取り上げる。DTES 地区は簡易宿泊所（Single Room Occupancy : SROs）が集中する低所得層地域で、ホームレスも多い。行政区画としての DTES 地区（広域）は観光地、工業地帯等も含まれる約 2.0 km²の範囲であるが、いわゆる簡易宿泊所街、低所得地域としての DTES 地区（狭義）に限定すると 0.2 km²程度で人口約 6,100 人、男女割合は 65:35 である（2011 年、カナダ統計局）。

BC 州では 2003 年にバンクーバー都市圏におけるホームレス施策計画が策定され、2004 年に全州的なホームレス対策が宣言された。BC 州住宅公社は 2006 年、2007 年に DTES 地区の SRO13 軒を買い上げて修理し、福祉住宅として民間団体等に運営を委託する施策を進めてきた。州・市では、DTES 地区でのホームレスの居住支援を（1）シェルターでの保護、（2）transitional housing（地域生活移行準備のための住宅）で社会生活に馴染むためのトレーニング、（3）地区外の一般住宅に移行するか、もしくは地区内および周辺地域の supportive housing（ケア付き住宅）での生活へ移行、という枠組みで設定しており、各段階での居住と生活支援が地域民間団体（NPO、社会企業等）への委託に基づいて実施されている。

もともと DTES 地区では、ホームレスや薬物使用者など一般地域で排除、差別の対象とされやすい人々の人権問題に取り組む社会運動も積極的に行われてきた。さらに、生活物資の提供、薬物依存に関する福祉的医療的ケア、居場所づくりなど、地域内で提供される支援も質、量ともに充実している。そのためそうした支援に乏しい地域、ホームレスや薬物使用者の人権問題に意識の低い地域での生活を望む者は少ない。つまり、路上のホームレス数を削減し、一般地域への生活移行を最終的な目標として想定するバンクーバーのホームレス施策は、DTES 地区内での施設や支援活動を資源として活用することで居住確保や医療・福祉ケア提供など生活全体の改善としては成功しているが、同時に被支援者がより一般地域に移行しにくい結果ももたらしている。

一方で、DTES 地区では SRO の減少、中流層向けのマンション増加など住居をめぐる問題が生じている。家賃上昇にともない低所得者、生活困窮者にとってより経済的に住みにくい環境に変化しつつある DTES 地区の社会構造変化については都市下層地域のジェントリフィケーションという観点からも検討する必要がある。